

総合学術研究科に入って

2004年度博士前期課程修了 服部照義さん

【得られたこと】

総合学術研究科は文理が共存した大学院であったことから、理系の専門知識に特化しただけでなく、一般教養も含め知識の幅が広がったと思っています。特に研究については分野が広い分、目指す研究をする研究室に入りやすいという利点がありました。私は基礎研究をやっており、最終的に目指す研究結果まで到達はできませんでしたが、研究を進める上での基礎的な考え方を整理し、進める力は身につきました。



【印象に残っている授業や教員】

学部の頃学んでいた学問とかなり異なることをやっていたので、どれも新鮮だった記憶があります。中でも当時、研究科長だった森裕二教授の分子設計科学や、馬場俊彦教授の人間学の授業が印象に残っていますね。分子設計科学では有機物の合成手法について学びましたが、6人の受講者のうち私だけが電気電子工学科出身ということで、高校レベルの有機物の知識では全然ついていけないわけもなく、話を理解するのに苦労しました（笑）

ただ教授もその点に配慮してくれたり、同期メンバーもわからないところを教えてくれたりして、大変助かっていました。人間学では人間の幸福について真剣に考えるという哲学的な感じの授業でしたが、馬場教授の話の進め方がうまく、哲学的な話が聞きやすかったことや、授業以外にも考え方に悩んだときに馬場教授と話すと、自分の中の考え方が広くまとまったということがあり、授業以外でも大変お世話になった記憶があります。





【大学院生活で楽しかったこと】

まずは、研究室の仲間が多国籍だったことですね。バングラデシュ、インド、タイ、中国など日本人以外の人が多いので、研究室にいながら異文化交流ができたことが良かったです。

それから、海洋実習！講義の一環で開講された実習で、三河湾の生態系を実際に確認するため、船で海に出て実際のアサリやアオサなどの分布状況を確認しました。実際の分布変化の大きさには驚かされましたが、実習後アサリを貰うことができ、少し得をした気分になりました(笑)

【今の仕事に活かされていること】

今は生産設備を改善する設備の開発業務を行っています。研究開発の中では、目的の結果に辿りつくために既存の技術の集約だけでなく、違う業種の技術に目を向け活用することが重要なんです。視野を広く保つということを大学院で学ぶことができたため、現在も異業種の技術にも目を向けながら仕事をしています。

学部と同じ分野の大学院を出ている場合、コア技術を追求するという形では有意義かもしれませんが、でも、企業で働くという意味では本研究科のような多岐に渡る知識を得られる教育環境は非常におススメです！

----- 今回の先輩 -----

住友電装株式会社

服部 照義 (はっとりてるよし) さん

2004年度博士前期課程修了

